

平成30年度全国学力・学習状況調査の 結果及び分析について

奈良県教育委員会

・他府県との比較及び県内団体間の比較については、公立学校のデータを利用しています。

・私立学校については、本調査へ参加した学校のデータを集計したものです。
(私立学校の参加は任意)

目 次

平成30年度全国学力・学習状況調査の結果及び分析について

- | | |
|--------------------|------------|
| 1 学力の状況について | P 1 |
| 2 学習意欲の状況について | P 6 |
| 3 規範意識の状況について | P 12 |
| 4 学力・学習状況調査の分析について | P 15 |

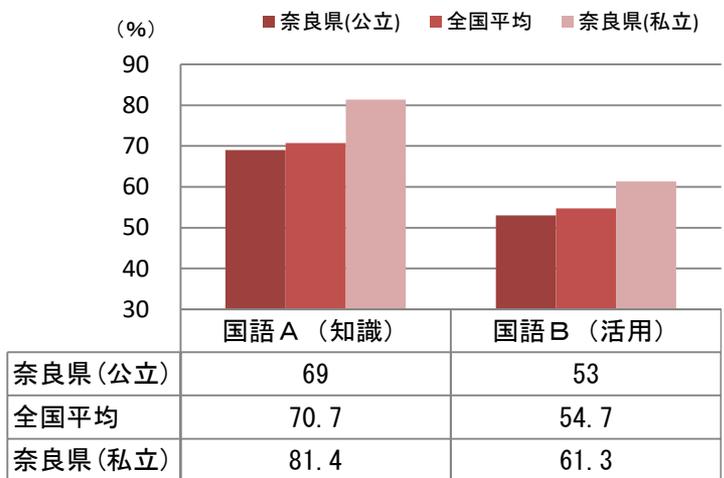
1 学力の状況について

1-1 学力の状況(小学生)

小学生の学力の状況を4教科の平均正答率で見ると、算数Aは全国平均並みで、国語A、国語B、算数Bは全国平均を下回った。奈良県の公立と私立を比較すると、算数Bにおける差が最も大きくなっている。

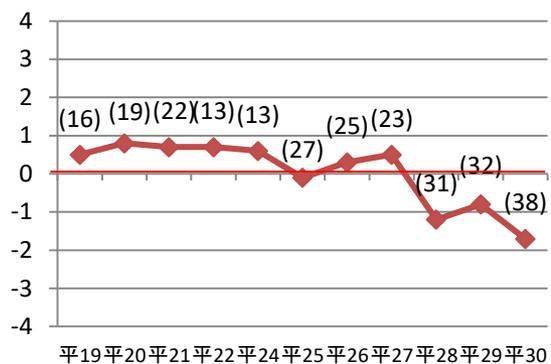
参考:A問題は「知識」の問題であり、B問題は「活用」の問題であってPISA(OECDの国際比較学力テスト)型学力に対応する問題である。

H30平均正答率(国語)

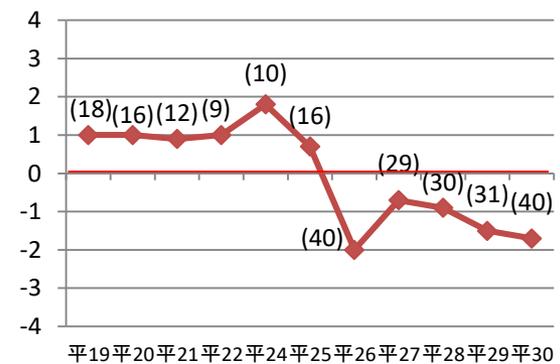


平均正答率の全国平均との差の推移

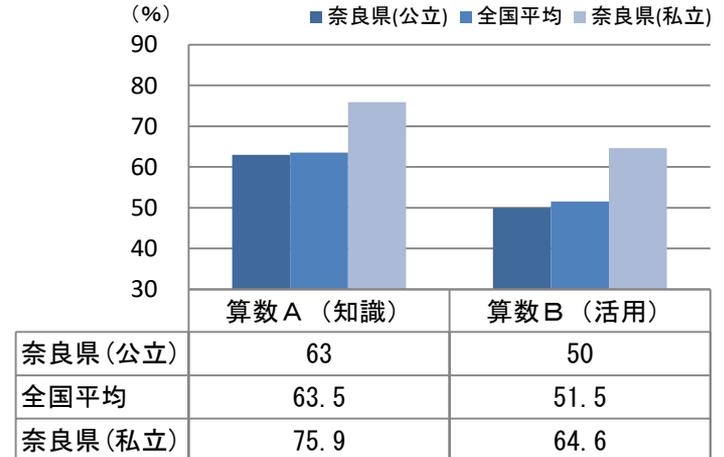
国語 A (知識)



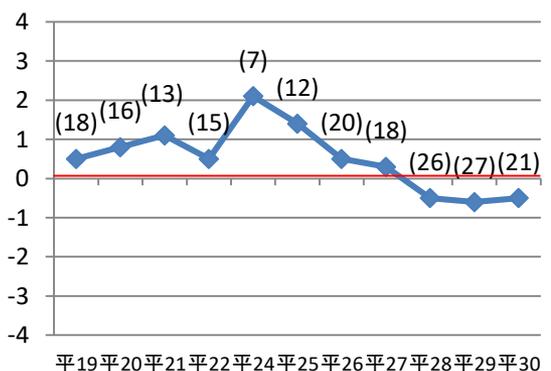
国語 B (活用)



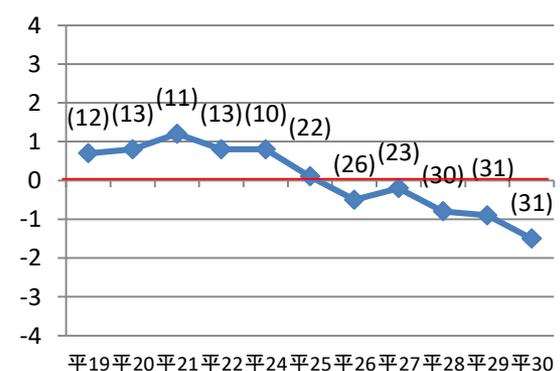
H30平均正答率(算数)



算数 A (知識)



算数 B (活用)



※奈良県(公立)は整数表示

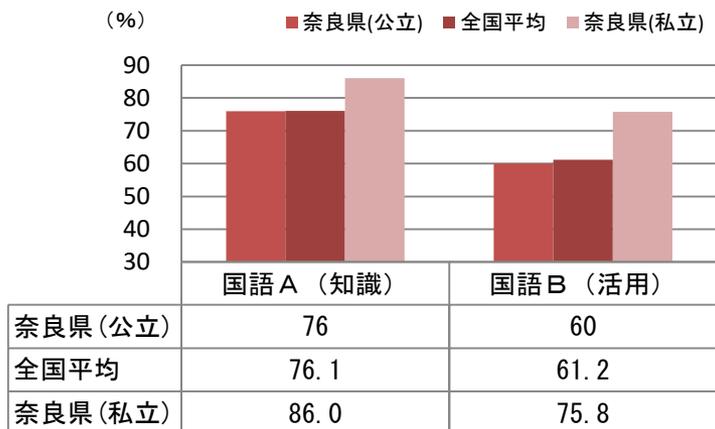
()内は全国順位

1-2 学力の状況(中学生)

・中学生の学力の状況を4教科の平均正答率で見ると、国語A、数学A、数学Bは全国平均並みで、国語Bは全国平均を下回った。奈良県の公立と私立を比較すると、数学Bにおける差が最も大きくなっている。

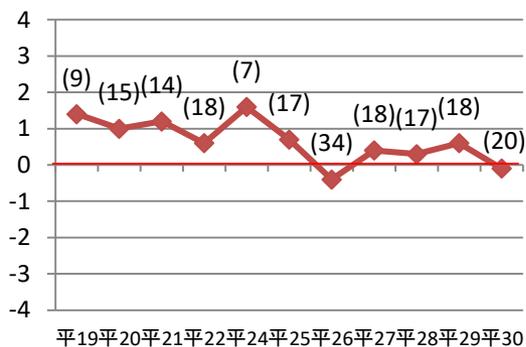
参考:A問題は「知識」の問題であり、B問題は「活用」の問題であってPISA(OECDの国際比較学力テスト)型学力に対応する問題である。

H30平均正答率(国語)

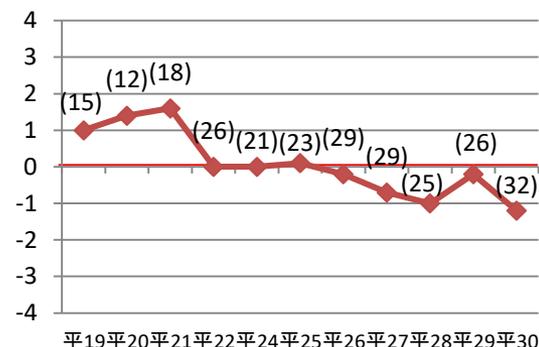


平均正答率の全国平均との差の推移

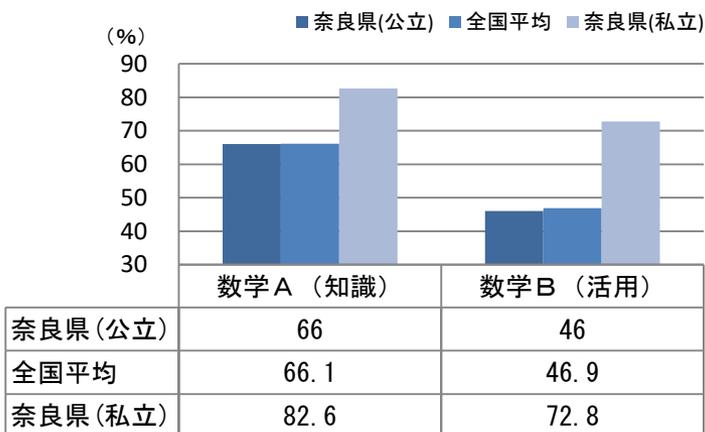
国語 A (知識)



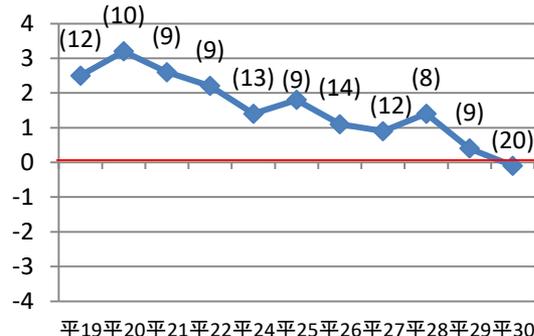
国語 B (活用)



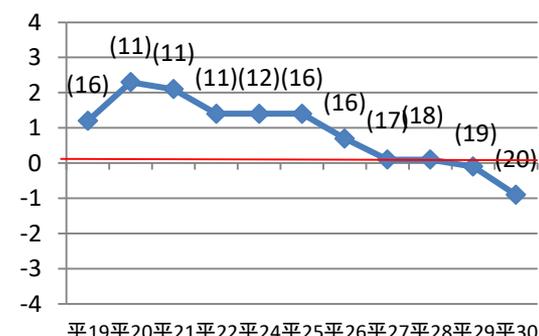
H30平均正答率(数学)



数学 A (知識)



数学 B (活用)



※奈良県(公立)は整数表示

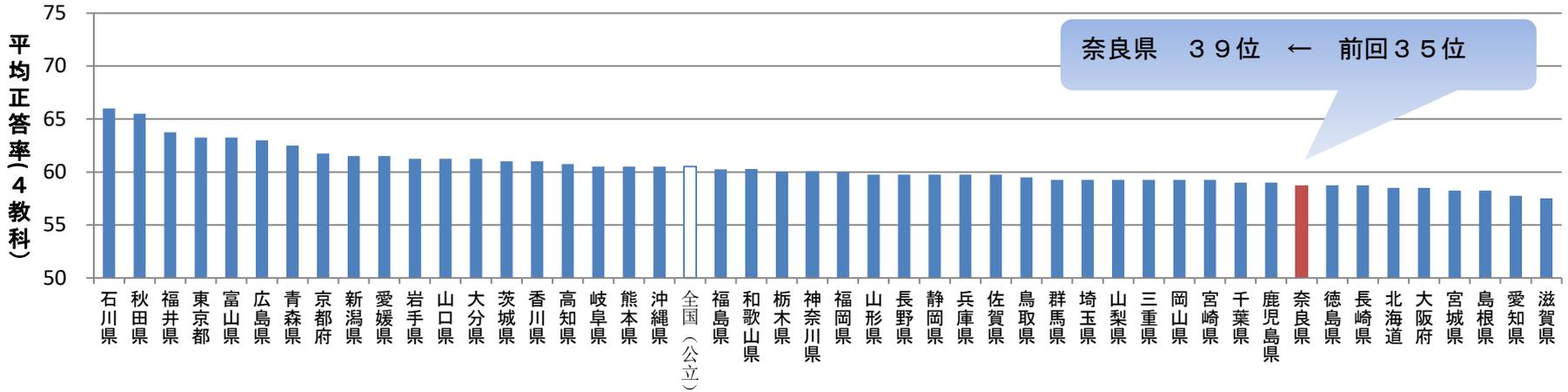
()内は全国順位

1-3 学力の状況(都道府県別比較)

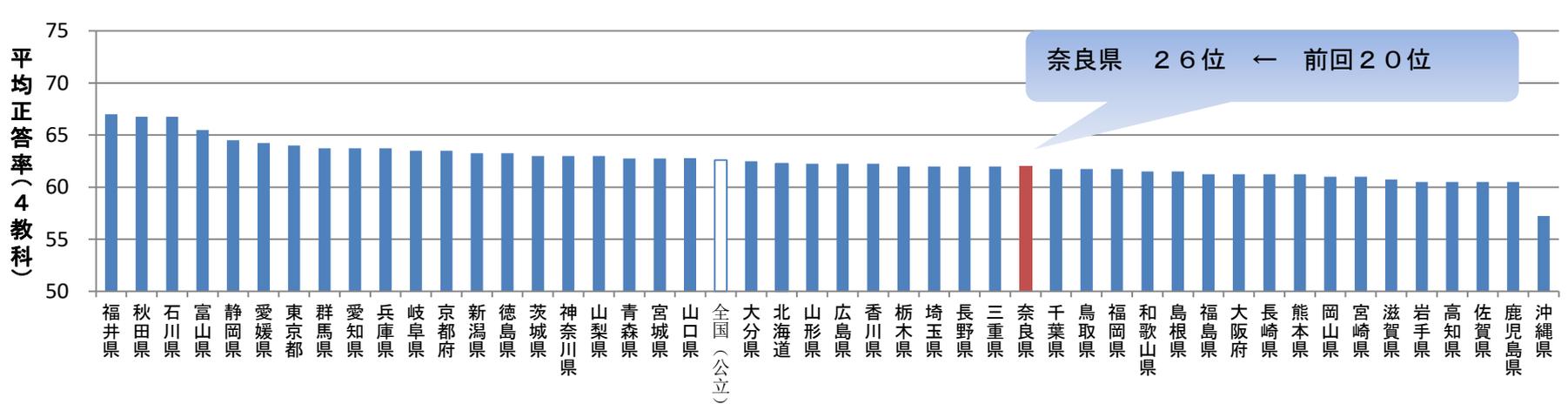
・都道府県別に平均正答率(4教科総合)を見ると、小学生39位(昨年度35位)。石川県、秋田県、福井県が昨年度と同様に上位を占めている。中学生は26位(昨年度20位)。福井県、秋田県、石川県が昨年度と同様に上位を占めている。

注)4教科総合:国語A、B、算数・数学A、Bの各平均正答率を相加平均したもの

(%) 【H30小学生(国・算)】



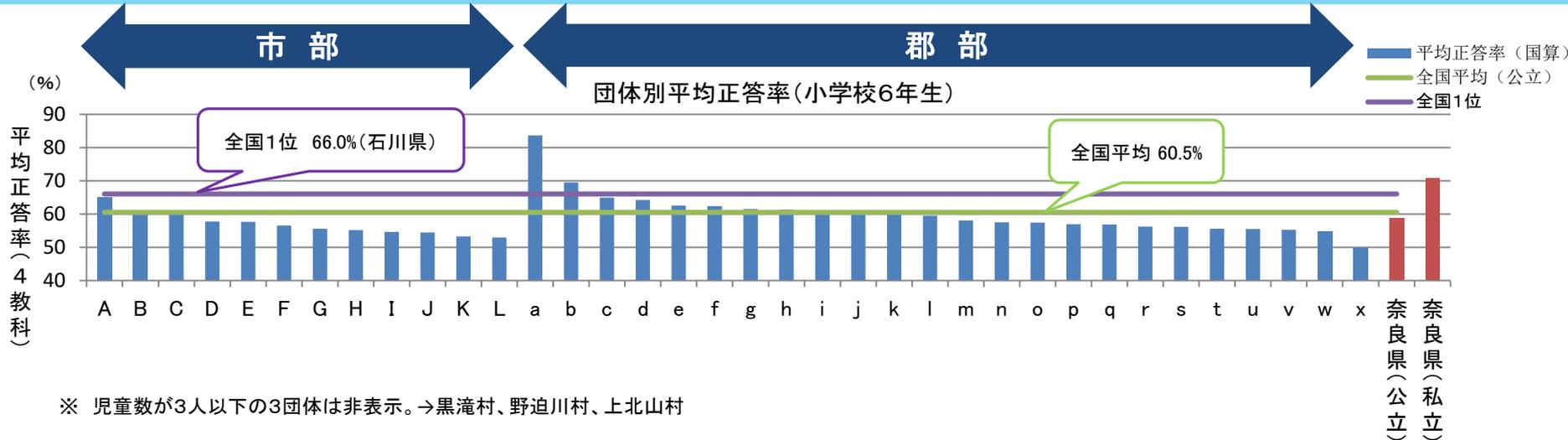
(%) 【H30中学生(国・数)】



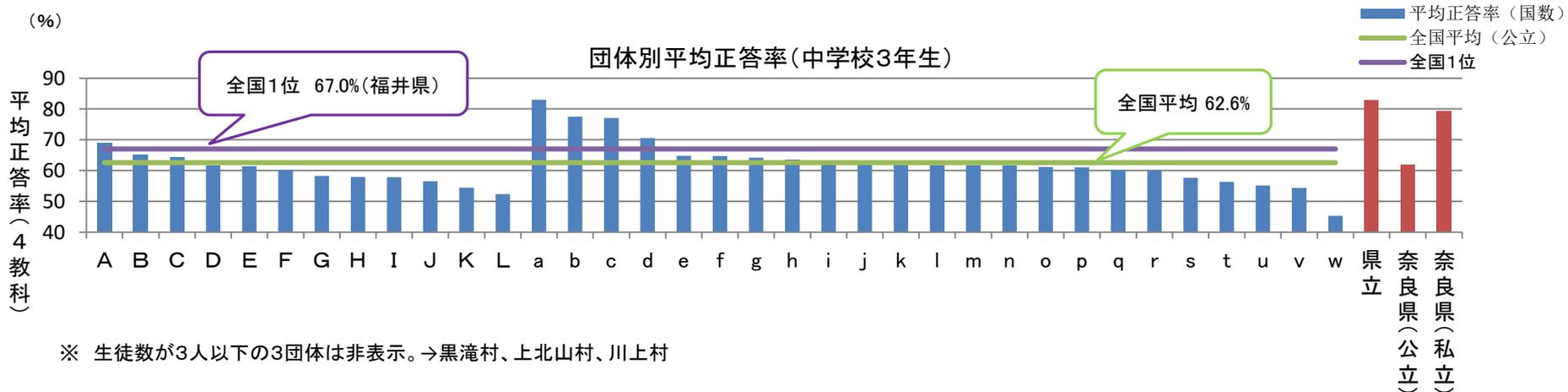
1-4 学力(団体別比較)

・団体別に平均正答率(4教科総合)を見ると、小学校6年生で全国平均を上回っているのは、市部では12団体のうち2団体16.7%(H29 25.0% H28 33.3%)。郡部では25団体のうち9団体36.0%(H29 40.7% H28 42.3%)。中学校3年生で全国平均を上回っているのは、市部では12団体のうち3団体25.0%(H29 33.3% H28 25.0%)。郡部では27団体のうち11団体40.7%(H29 46.2% H28 52.0%)。

注)4教科総合:国語A、B、算数・数学A、Bの各平均正答率を相加平均したもの

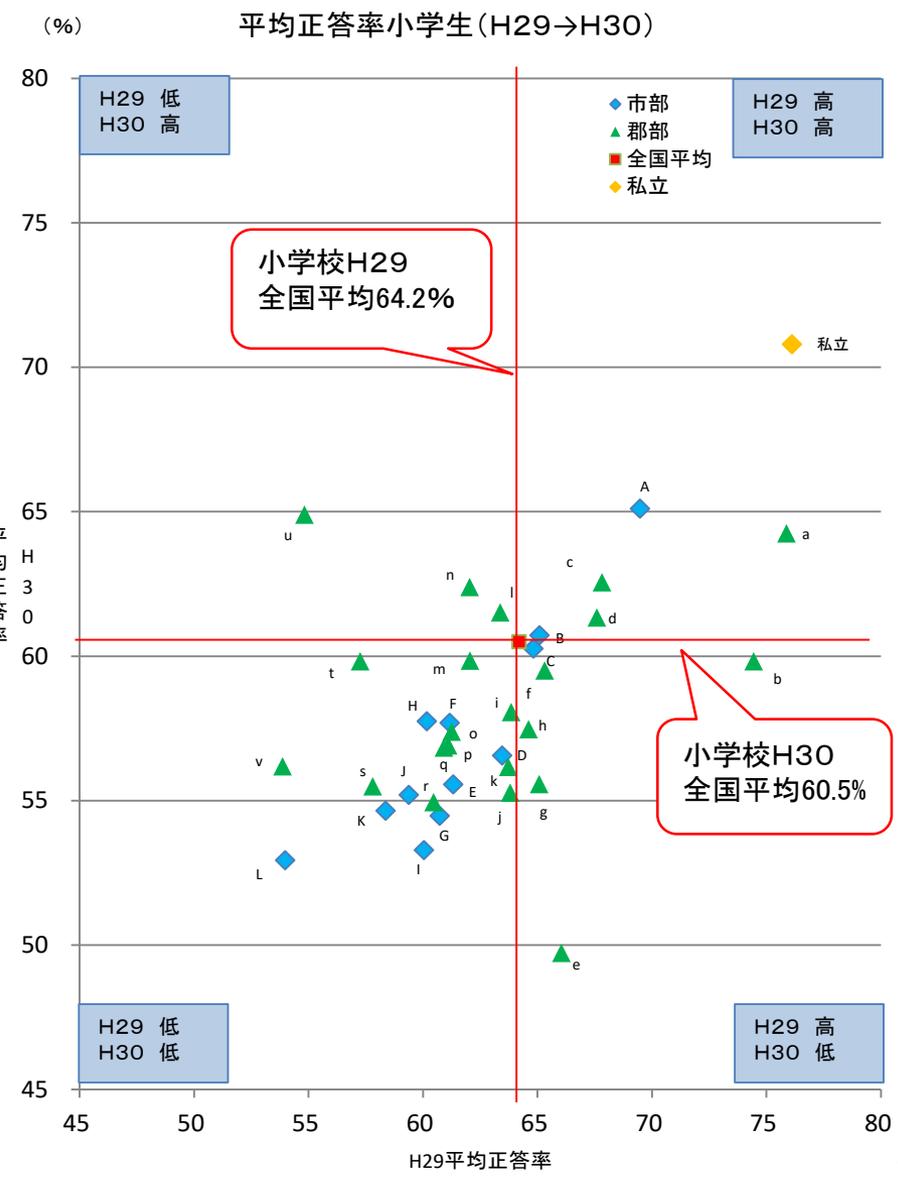


※ 児童数が3人以下の3団体は非表示。→黒滝村、野迫川村、上北山村

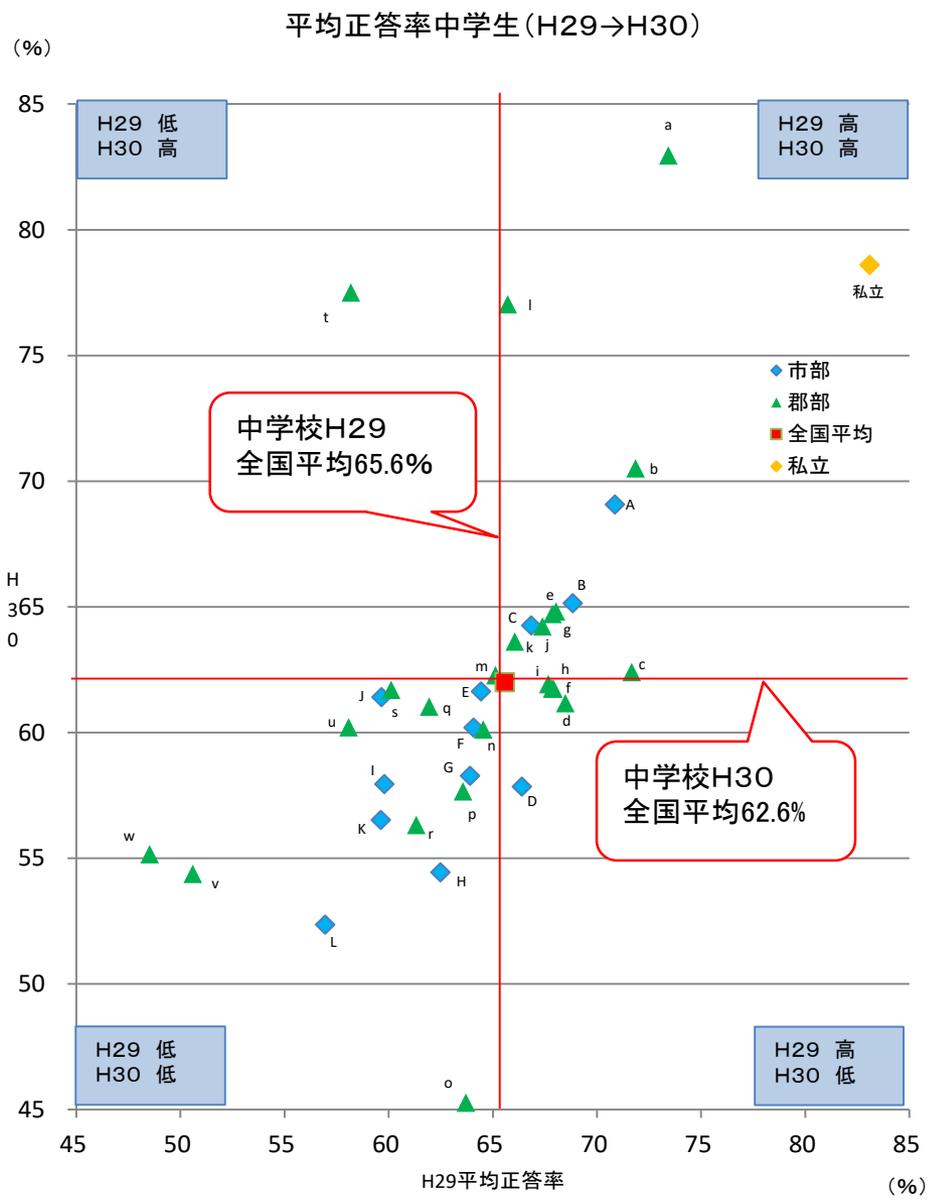


※ 生徒数が3人以下の3団体は非表示。→黒滝村、上北山村、川上村

1-5 学力(団体別比較 H29→H30)



※ 児童数が3人以下の5団体は非表示。
→ 曾爾村、黒滝村、野迫川村、上北山村、川上村



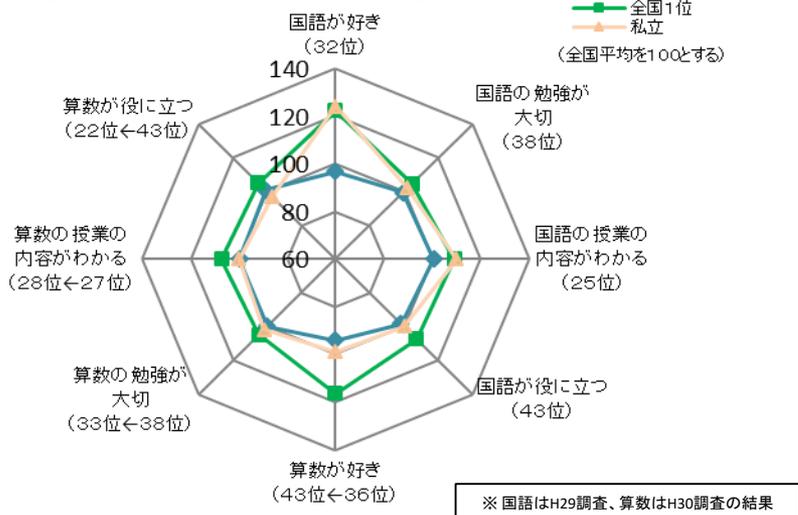
※ 生徒数が3人以下の3団体は非表示。
→ 黒滝村、上北山村、川上村

2 学習意欲の状況について

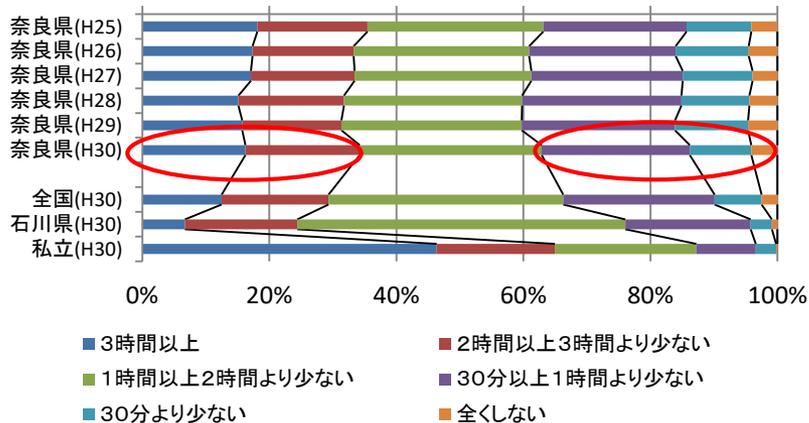
2-1 学習意欲(小学生)

- ・学習意欲に関する項目をみると、多くの項目で全国平均を下回り、「国語・算数の勉強が好き」という項目でその差が顕著である。多くの項目で奈良県の公立と私立の差は小さいが、「国語が好き」という項目では大きな差がある。
 - ・平日の学習時間について、「2時間以上」と「1時間未満」の割合が全国平均より高く、依然として二極化傾向が続いている。
- 注) 国語は平成29年度調査、算数は平成30年度調査の結果

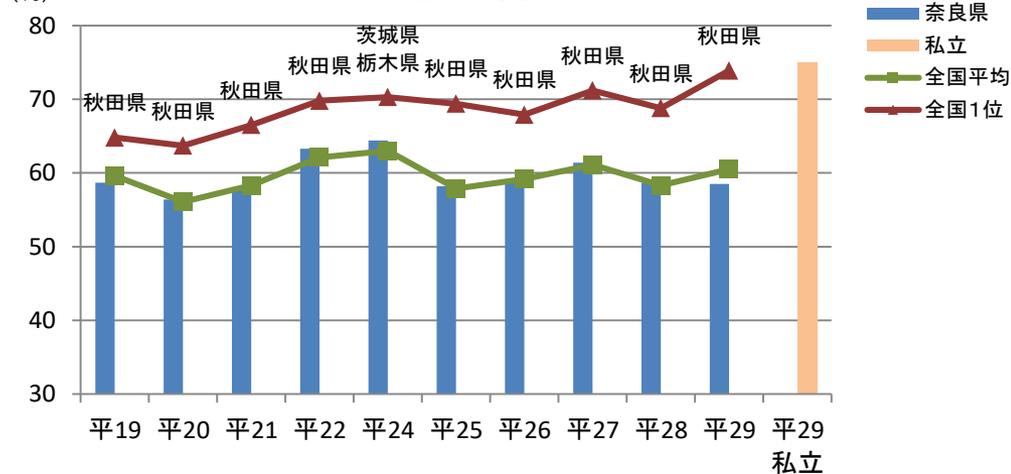
【学習意欲に関する項目(国・算)】



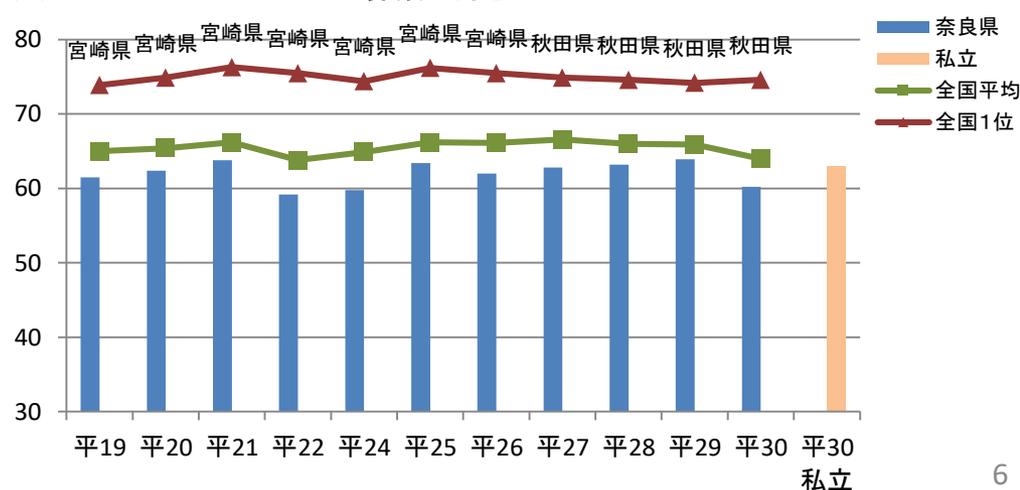
学習時間(平日・小学生)



国語が好き (%)



算数が好き (%)

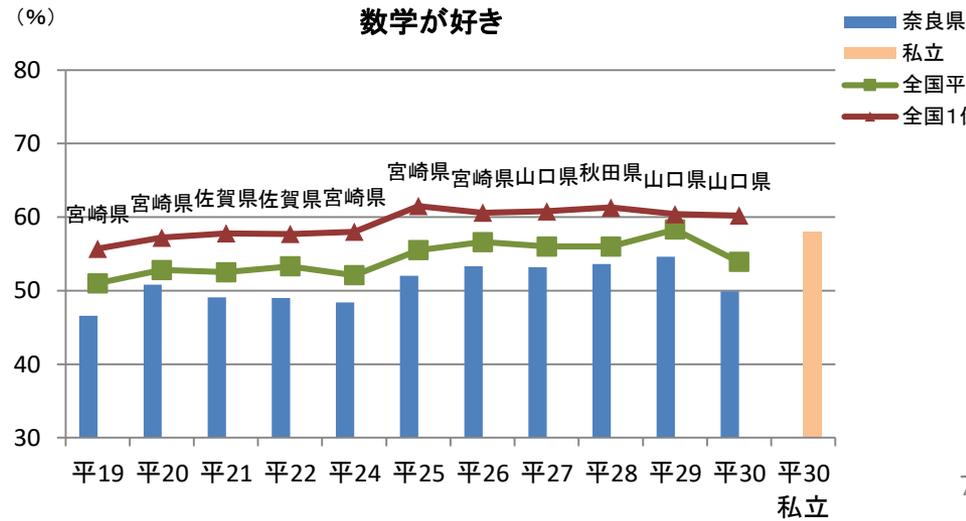
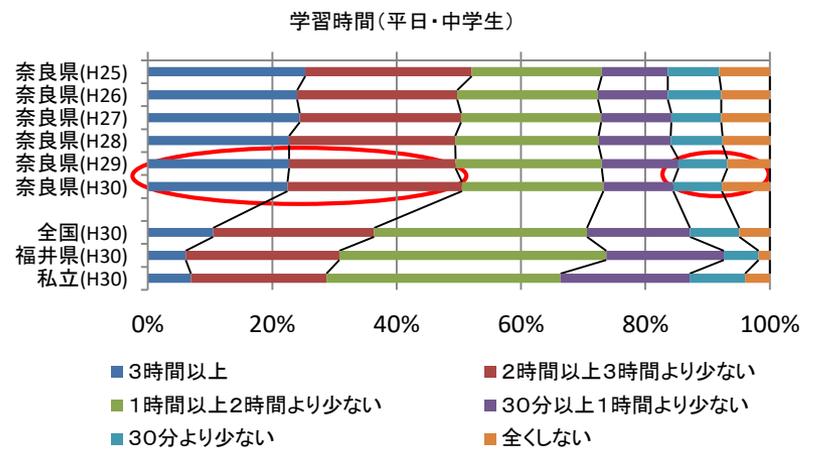
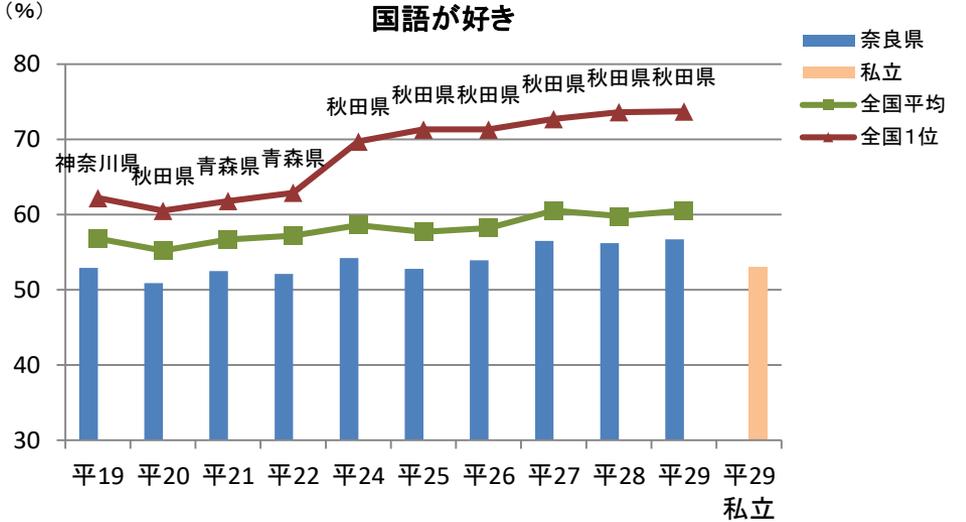
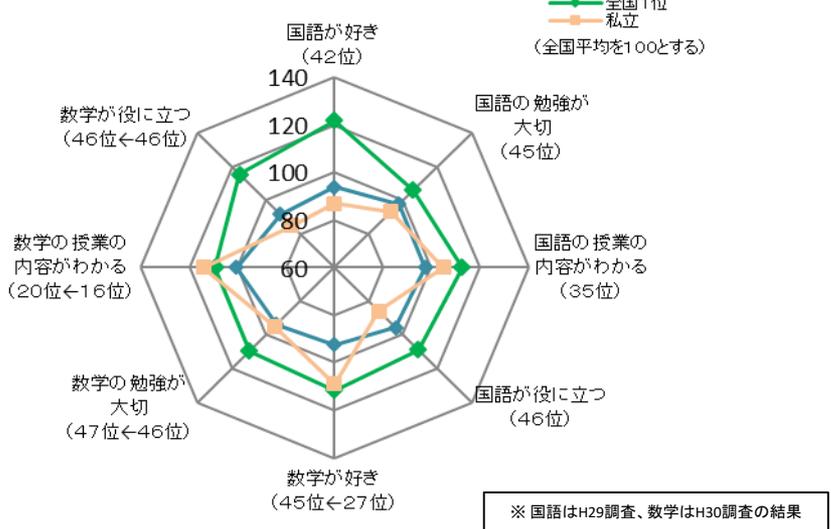


2-2 学習意欲(中学生)

・学習意欲に関する項目をみると、多くの項目で全国平均を下回り、「国語・数学の勉強が好き」という項目でその差が顕著である。奈良県の公立と私立を比較すると、「国語が好き」では公立が上回り、「数学が好き」では私立が上回っている。

・平日の学習時間について、「2時間以上」の割合は全国トップクラスで、公立は私立よりも学習時間が長い傾向がある。「全くしない」の割合も高く、依然として二極化傾向が続いている。 注)国語は平成29年度調査、数学は平成30年度調査の結果

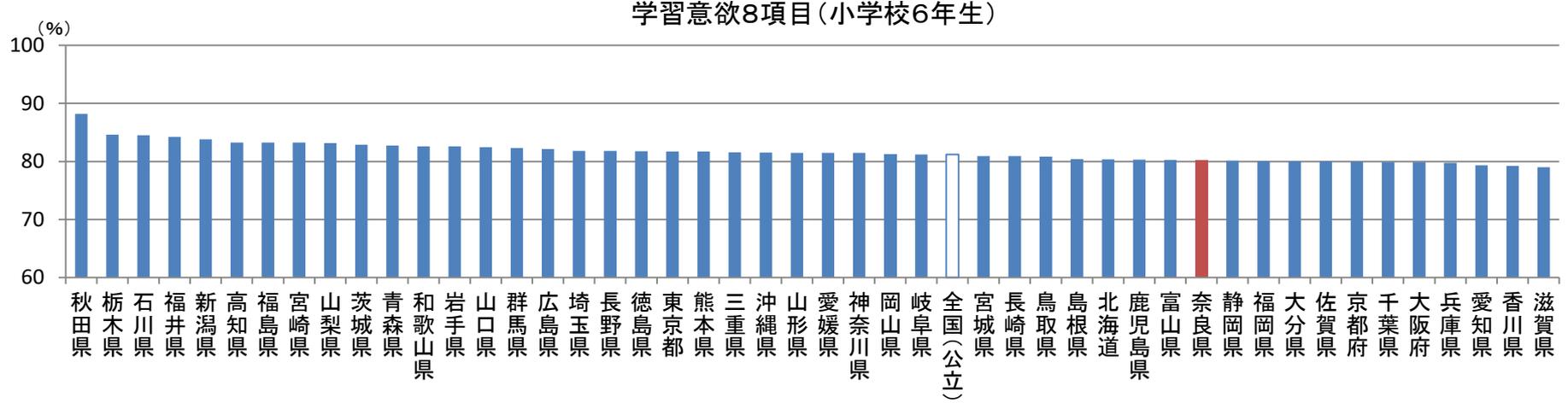
【学習意欲に関する項目(国・数)】



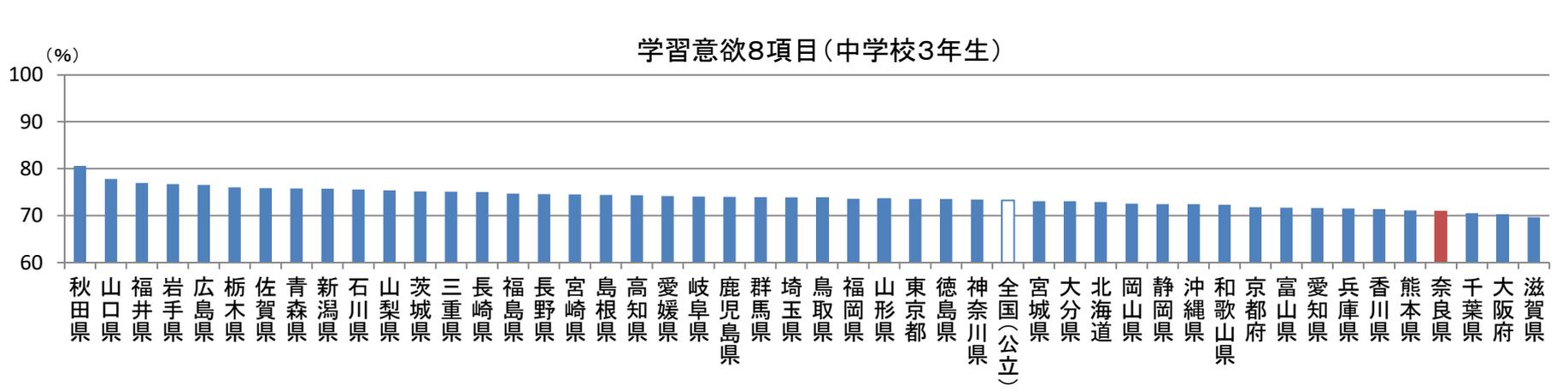
2-3 学習意欲の状況(都道府県別比較) ※平成29年度調査

・都道府県別に、学習意欲に関する項目(8項目の肯定的割合の相加平均)を見ると、都道府県間で大きな差は見られないが、平成29年度小学生36位(平成28年度31位)、平成29年度中学生44位(平成28年度46位)と低位にある。秋田県が小・中学生とも1位である。 注)国語は平成30年度調査実施せず

【小学生】



【中学生】

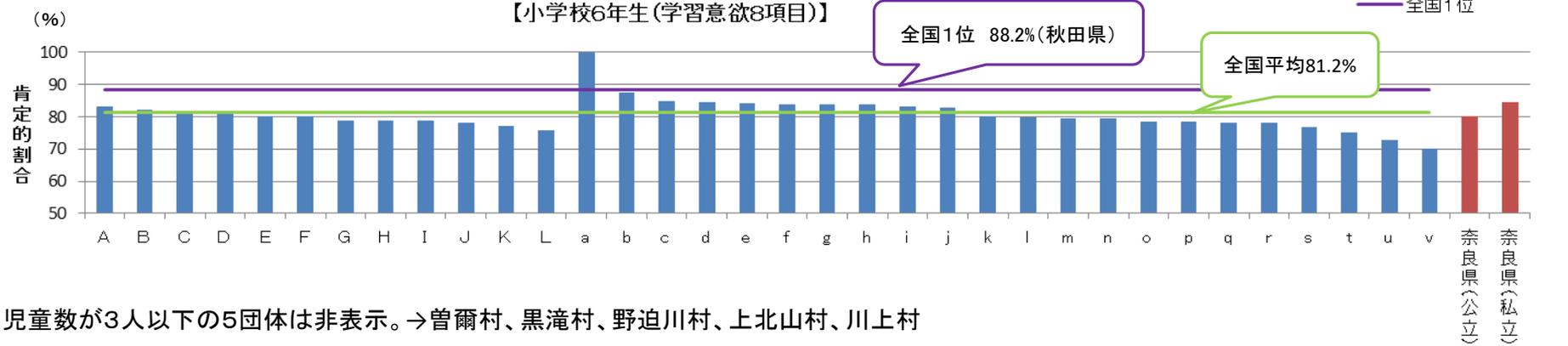


2-4 学習意欲の状況(団体別) ※平成29年度調査

・平成29年度調査の結果、団体別に、学習意欲に関する8項目(8項目の肯定的割合の相加平均)を見ると、全国平均を上回っているのは、小学生では、市部で4団体33.3%、郡部で14団体51.9%。中学生では、市部で1団体8.3%、郡部で11団体42.3%である。

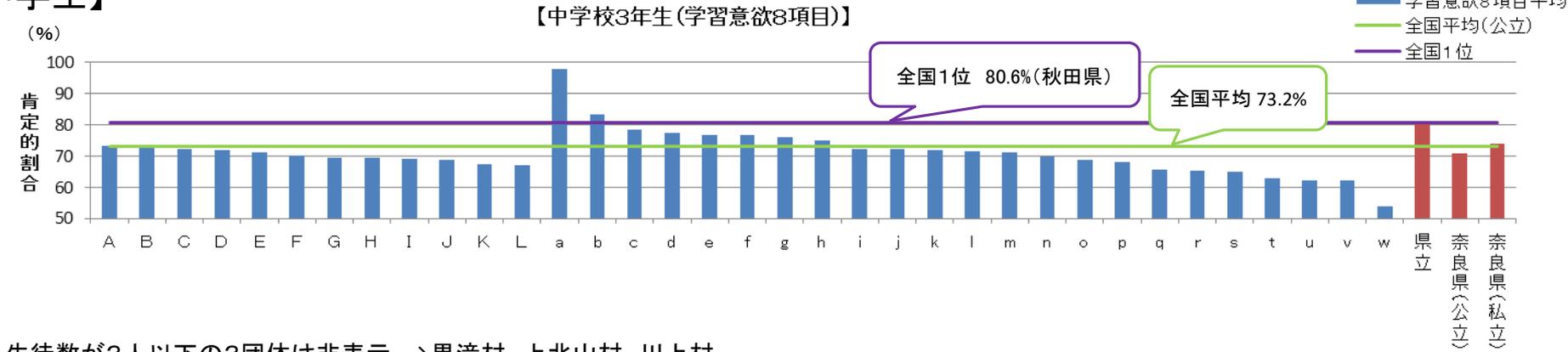


【小学生】



※ 児童数が3人以下の5団体は非表示。→曾爾村、黒滝村、野迫川村、上北山村、川上村

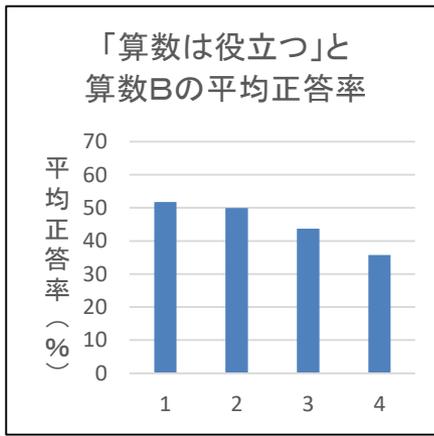
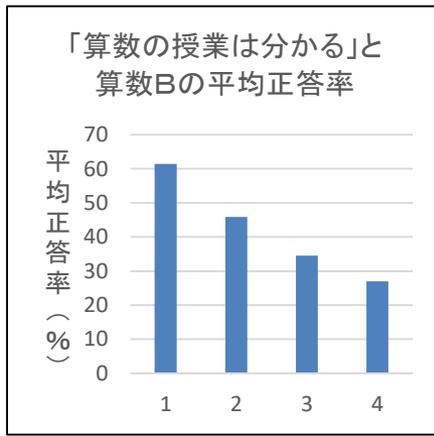
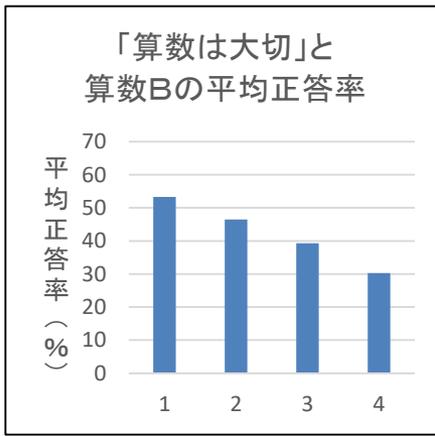
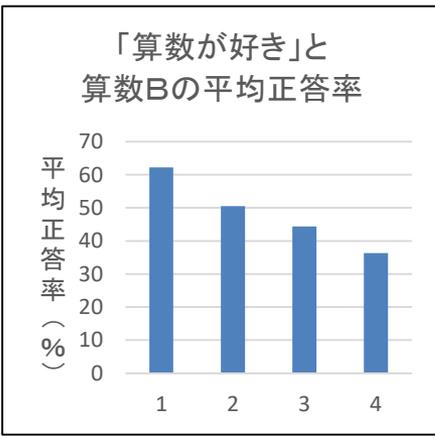
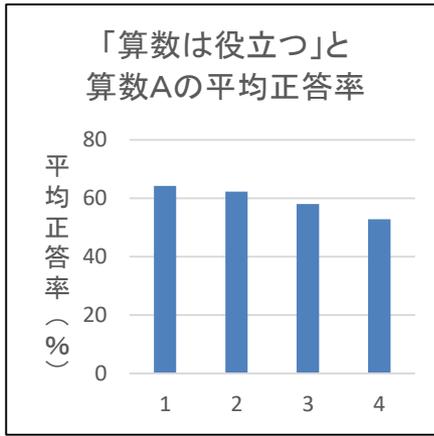
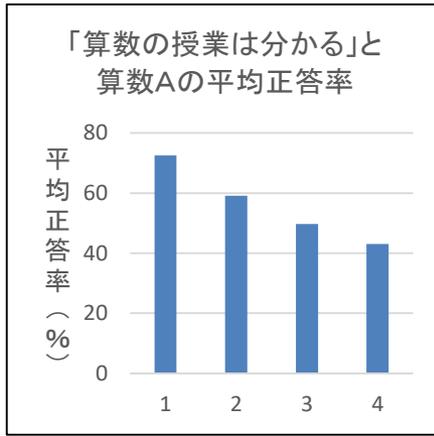
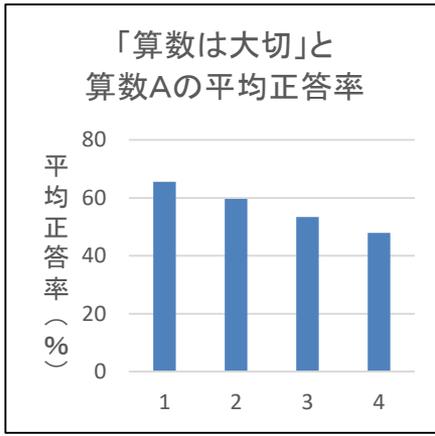
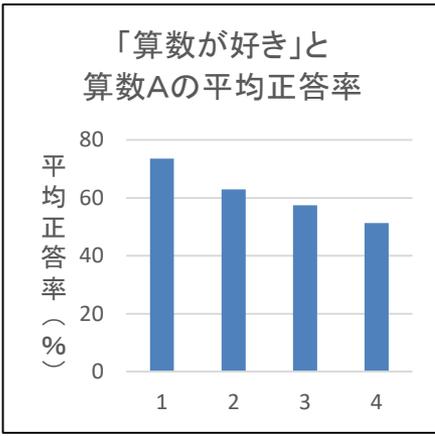
【中学生】



※ 生徒数が3人以下の3団体は非表示。→黒滝村、上北山村、川上村

2-5 算数における学習意欲と学力の関係(小学生)

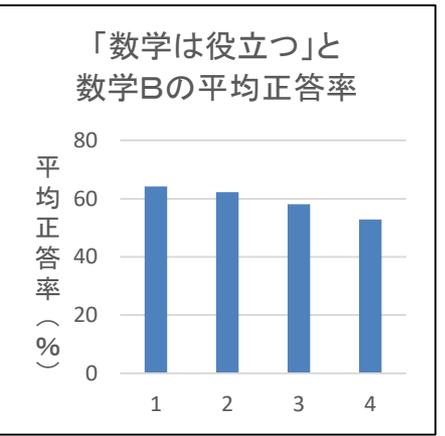
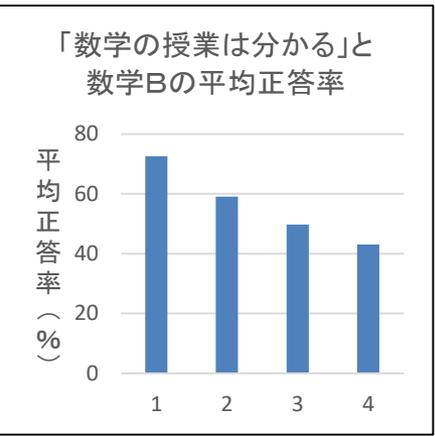
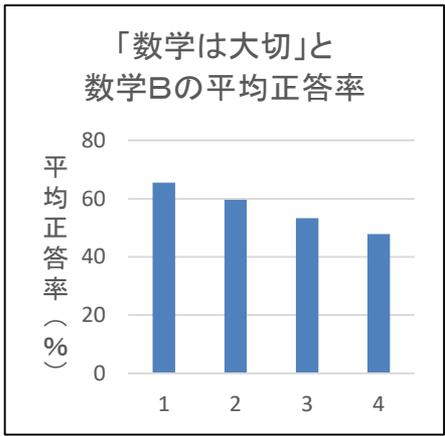
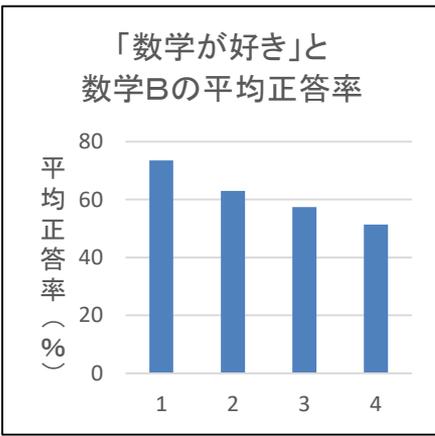
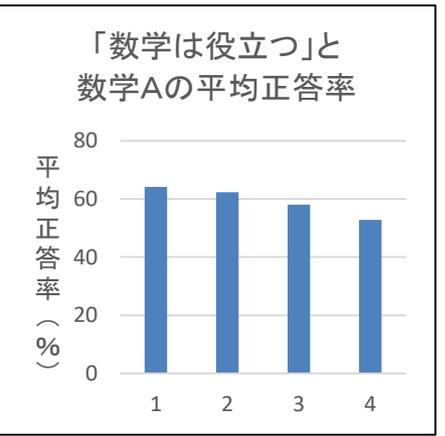
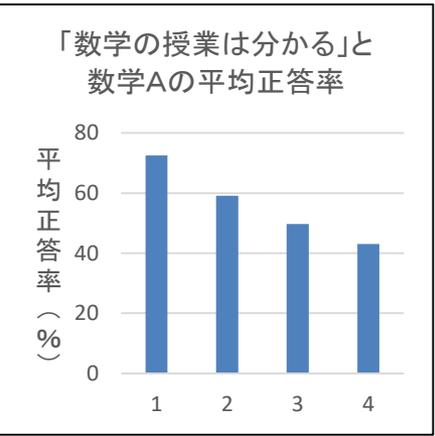
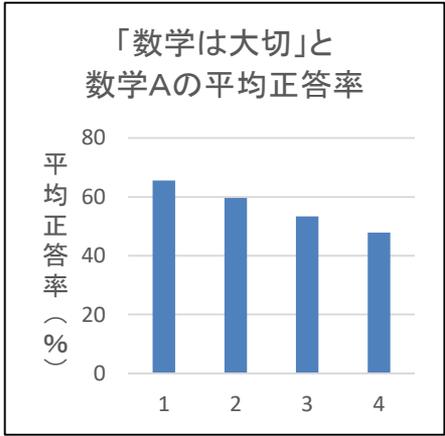
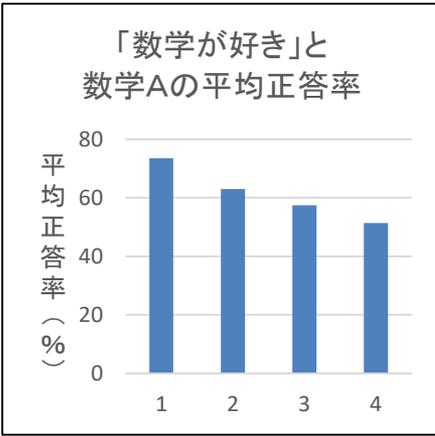
・算数の学習意欲に関する項目の回答状況と学力の関係を見ると、肯定的な回答ほど平均正答率が高い傾向がある。特に「算数の授業の内容はよく分かる」では選択肢の間で顕著な差が見られた。



選択肢 1:当てはまる 2:どちらかといえば、当てはまる
3:どちらかといえば、当てはまらない 4:当てはまらない

2-6 数学における学習意欲と学力の関係(中学生)

・数学の学習意欲に関する項目の回答状況と学力の関係を見ると、肯定的な回答ほど平均正答率が高い傾向がある。特に「数学の授業の内容はよく分かる」では選択肢の間で顕著な差が見られた。



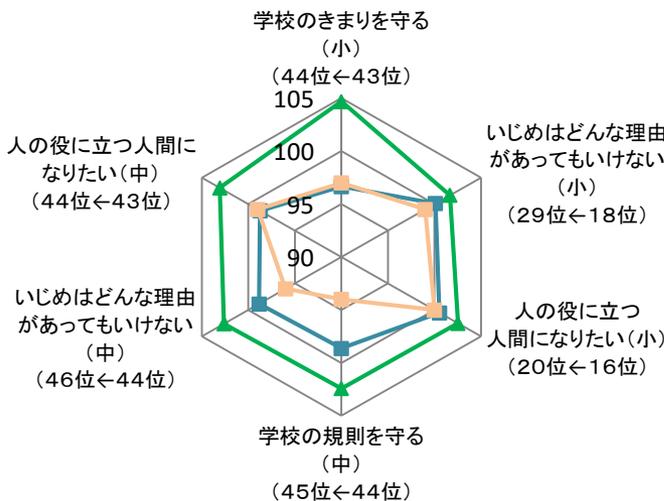
選択肢 1:当てはまる 2:どちらかといえば、当てはまる
3:どちらかといえば、当てはまらない 4:当てはまらない

3 規範意識の状況について

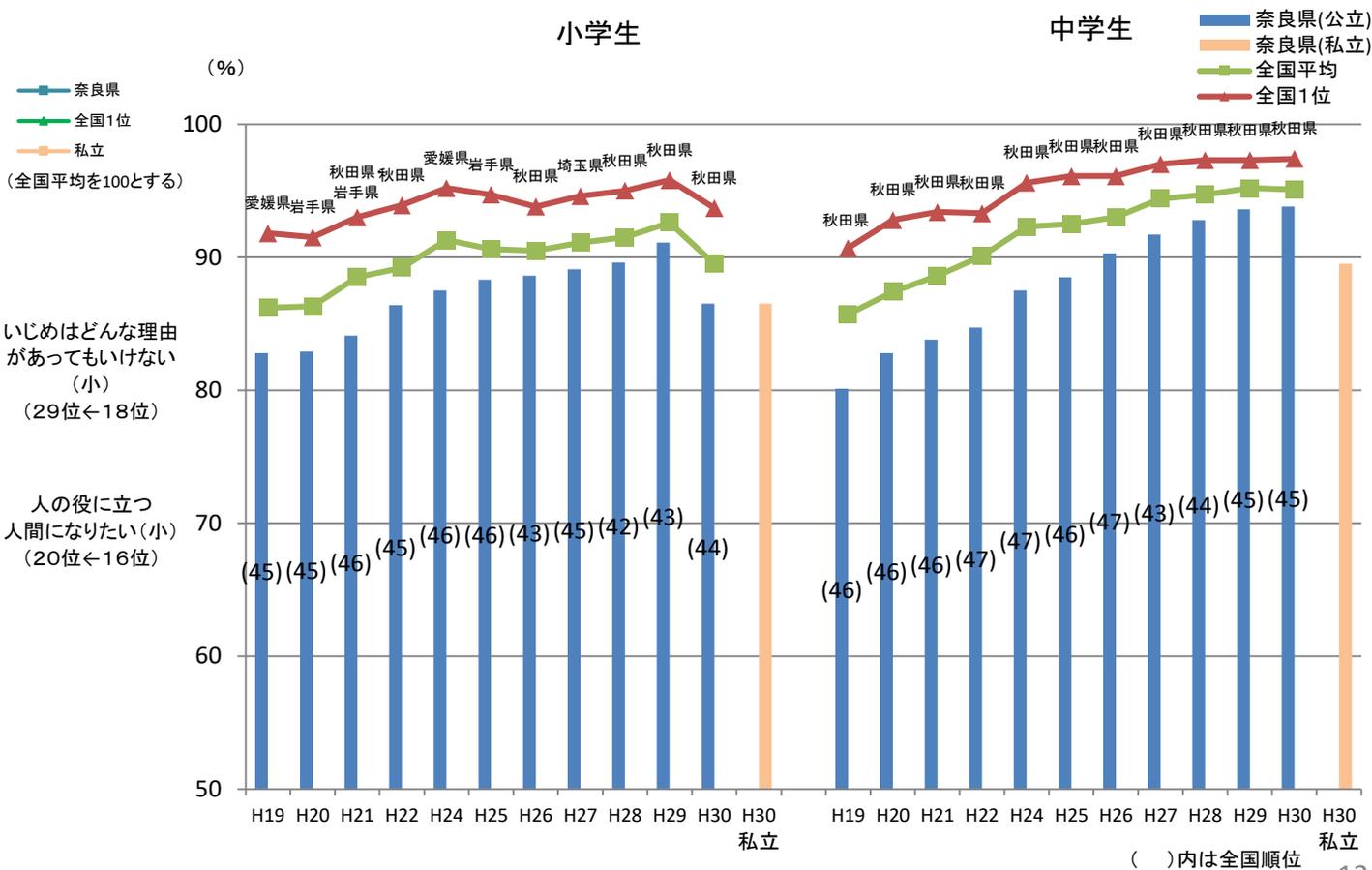
3-1 規範意識の状況

・規範意識に関する項目に肯定的に回答した児童生徒の割合を見ると、小学生、中学生ともに全国平均との差が見られる。小学生の「学校のきまりを守る」の項目で全国平均との差が大きい。私立も同様の傾向が見られるが、中学生では特に差が大きくなっている。 注)規範意識: 広く集団生活の維持・向上のために一人一人が従うべき価値判断の基準を守ろうとする意識

【規範意識(小・中学生)】



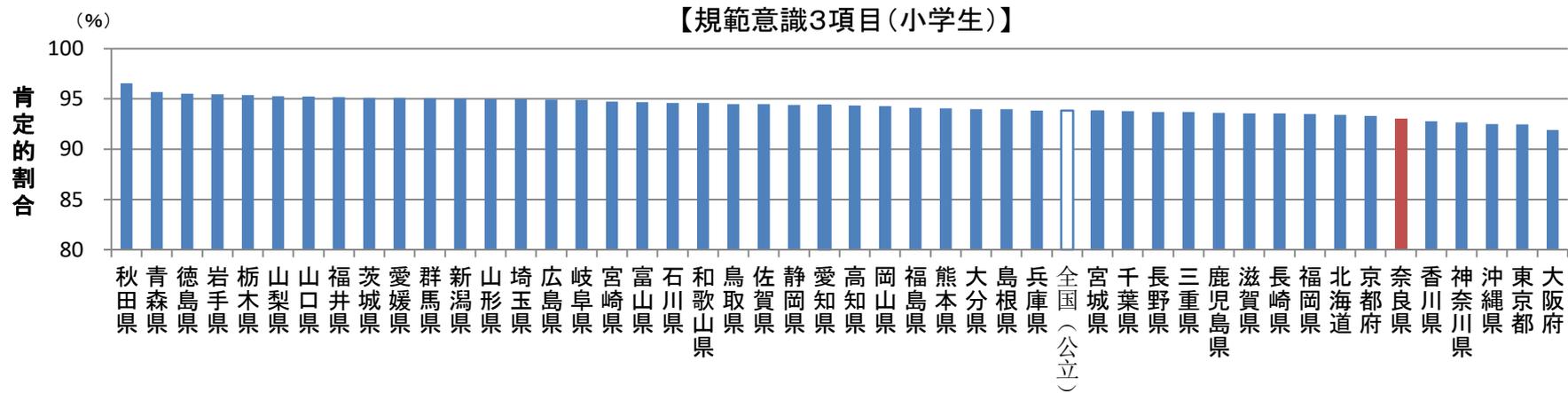
「学校のきまり・規則を守る」と回答した子どもの割合の推移



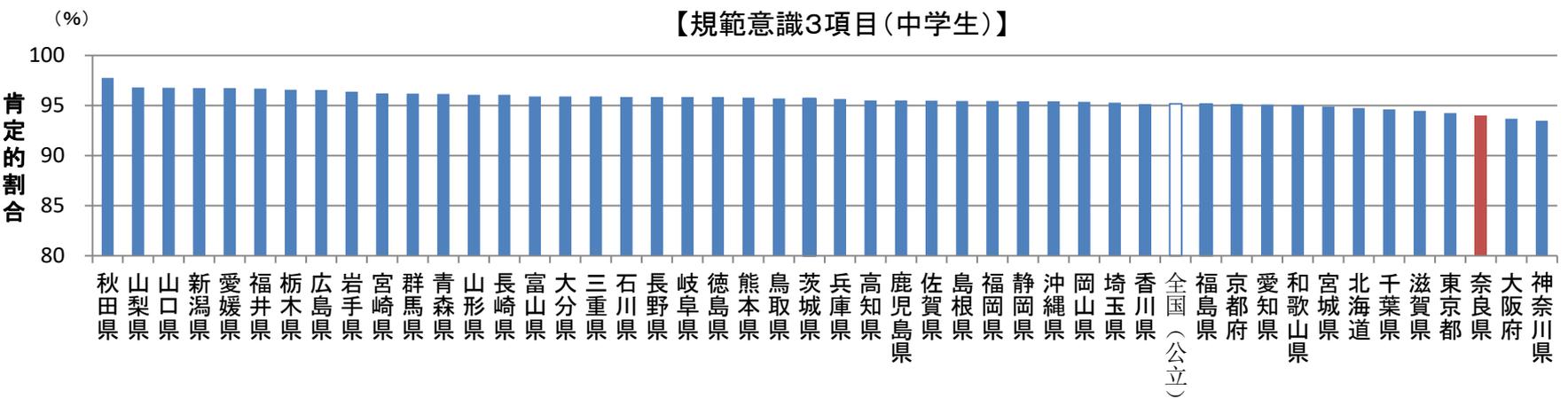
3-2 規範意識の状況(都道府県別比較)

・都道府県別に、規範意識に関する項目(3項目の肯定的割合の相加平均)を見ると、都道府県間で大きな差は見られないが、奈良県は小学生42位(昨年度は37位)、中学生45位(昨年度は45位)と低位にある。秋田県が小・中学生とも1位である。

【小学生】

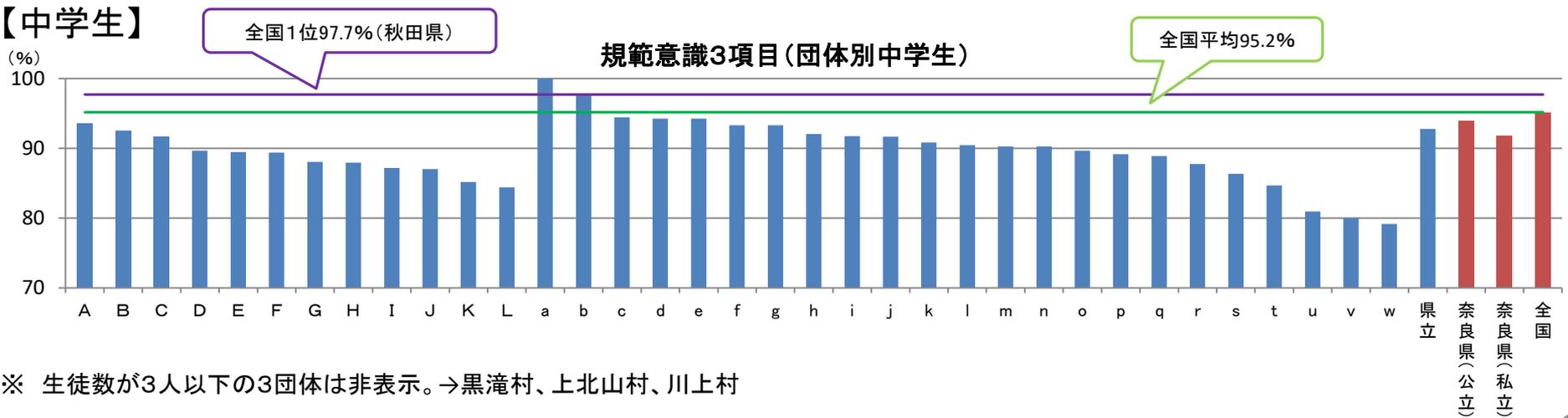
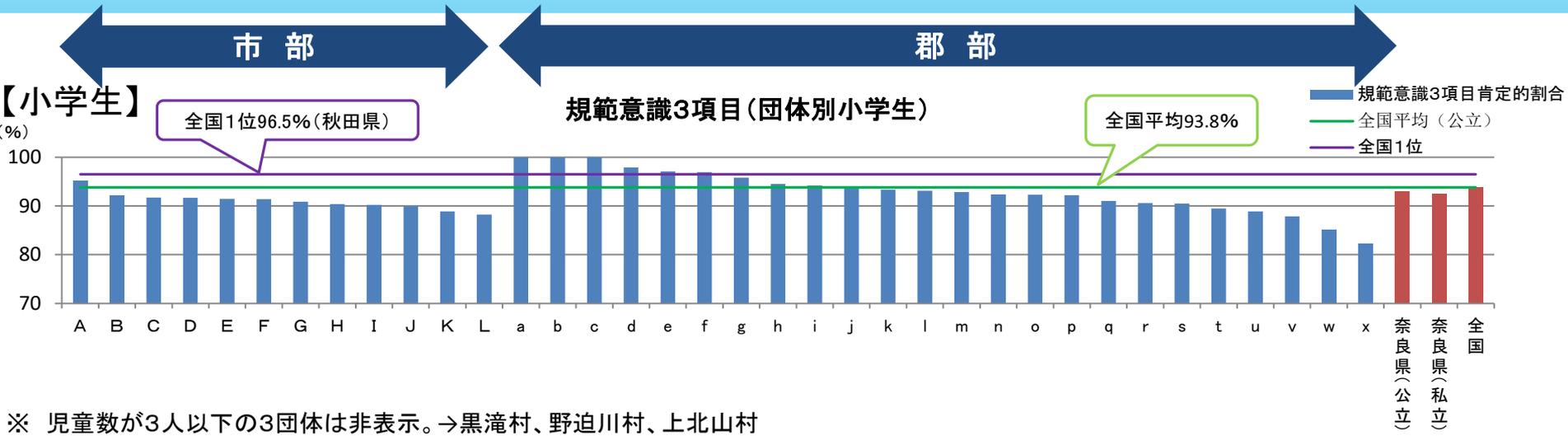


【中学生】



3-3 規範意識の状況(団体別)

・団体別に、規範意識に関する項目(3項目の肯定的割合の相加平均)を見ると、全国平均を上回っているのは、小学生では、市部で1団体8.3%、郡部で10団体40.0%。中学生では、市部で0団体0%、郡部で5団体18.5%である。



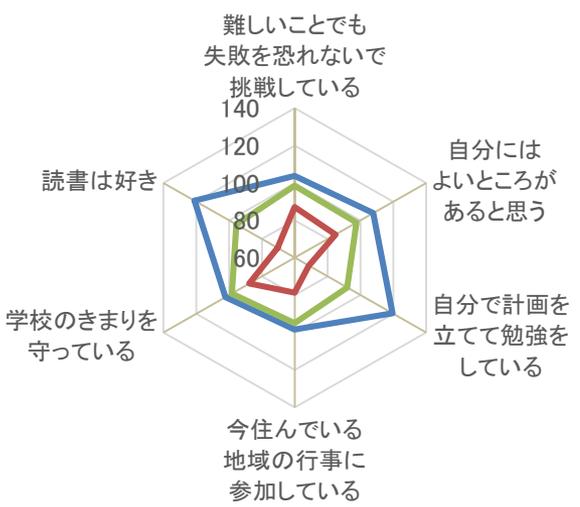
4 学力・学習状況調査の分析について

4-1 国語、算数・数学別上位・下位10%の児童生徒の傾向分析 ※平成29年度調査

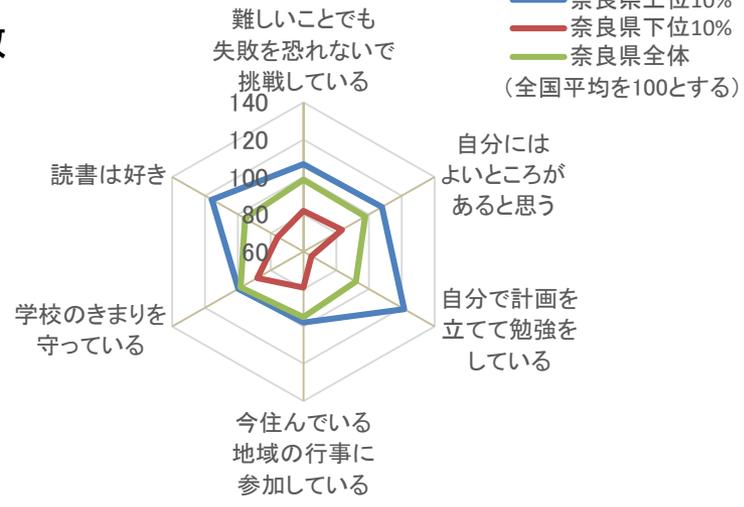
・「読書は好き」「自分で計画を立てて勉強をしている」と回答する児童生徒の割合は、成績層により大きな差がある。

【小学生】

国語

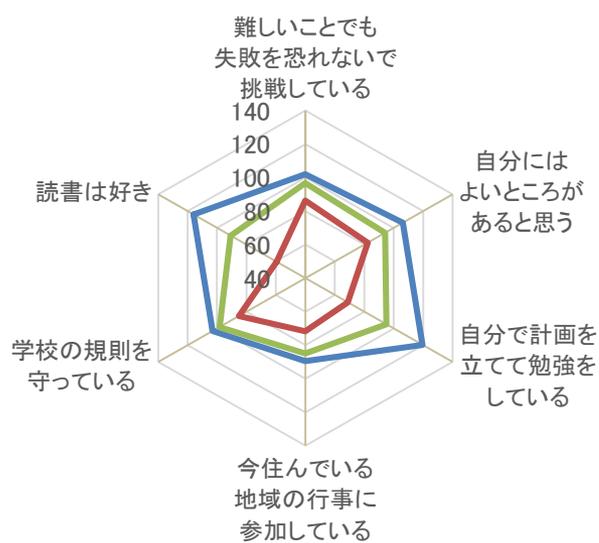


算数

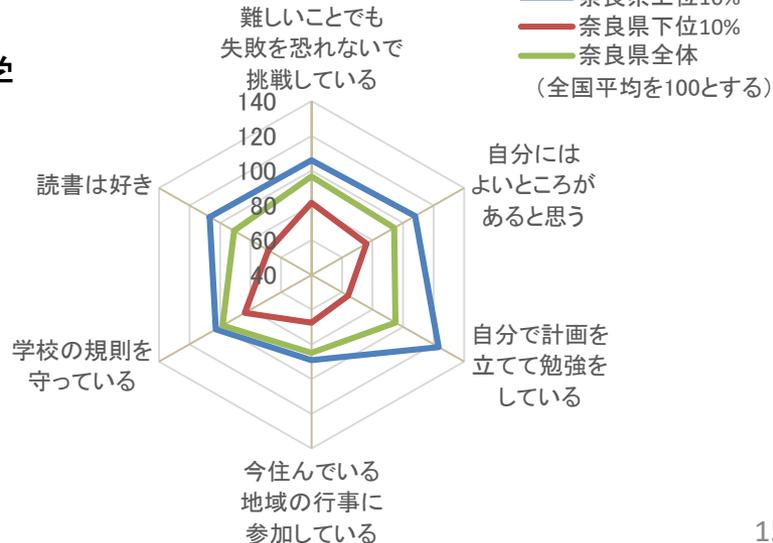


【中学生】

国語



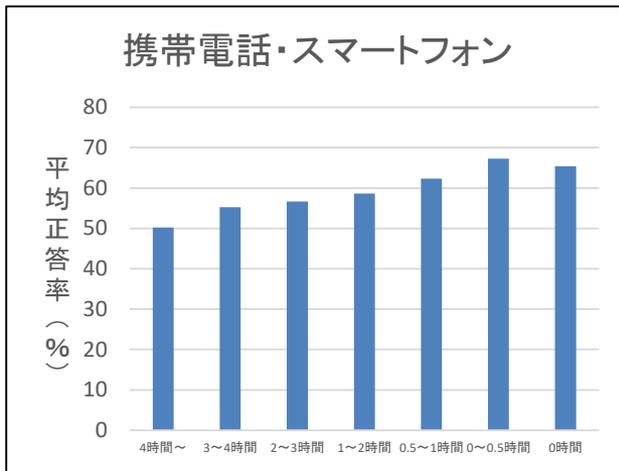
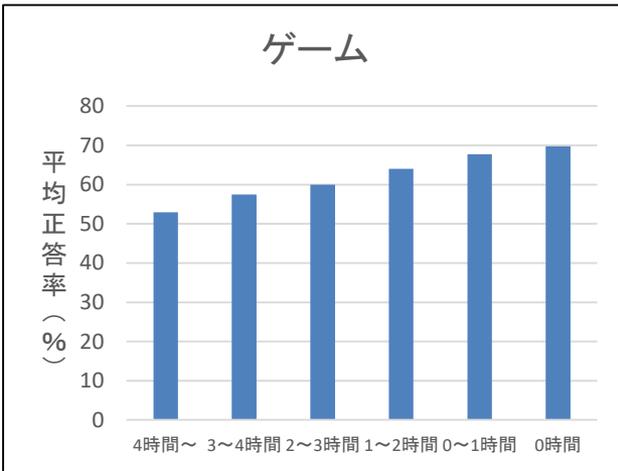
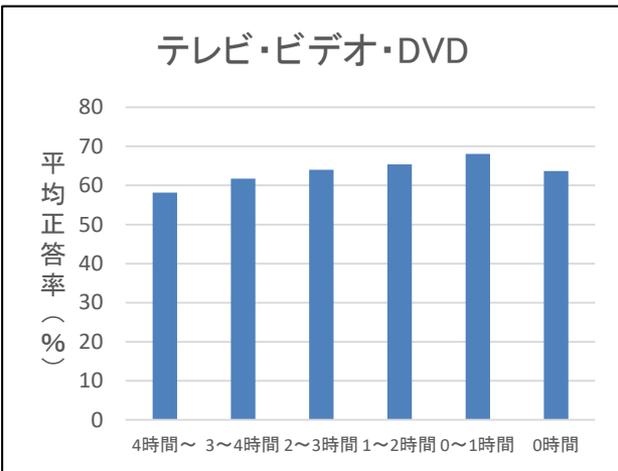
数学



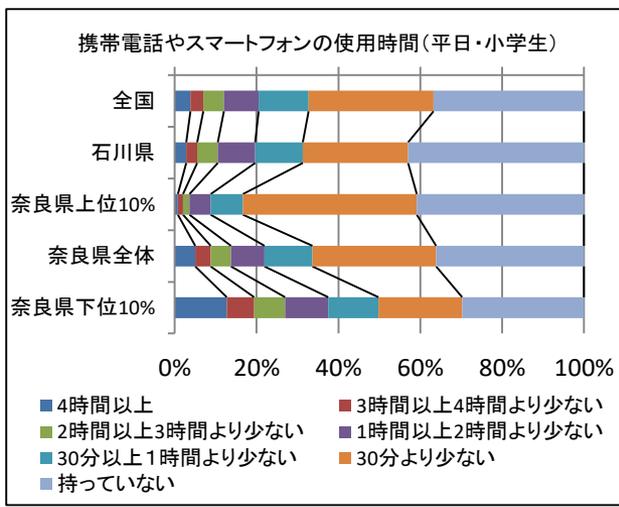
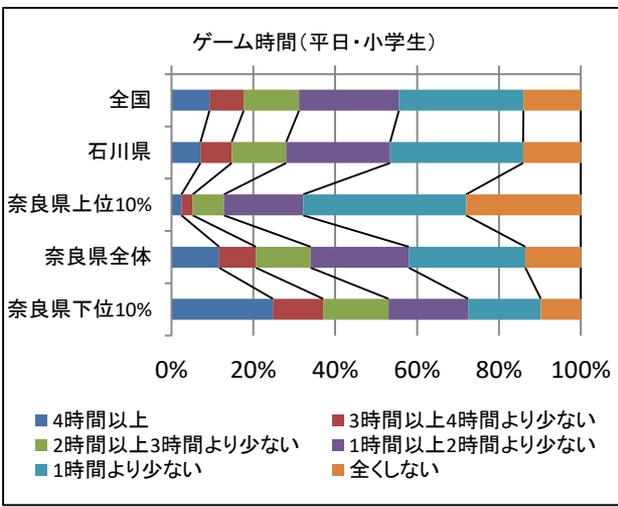
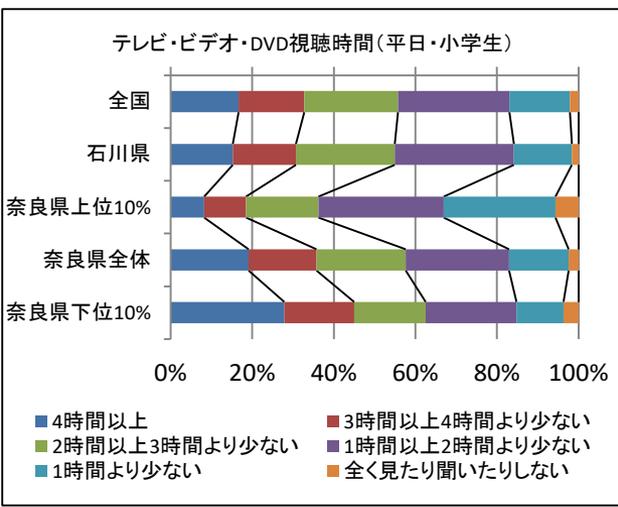
4-2 テレビ、ゲーム、携帯電話等の利用時間と学力の関係について(小学生)

・平日のゲーム、携帯電話・スマホの利用時間は、成績層により大きな差がみられる。

奈良県の利用時間別平均正答率(平成29年度調査:小学生)



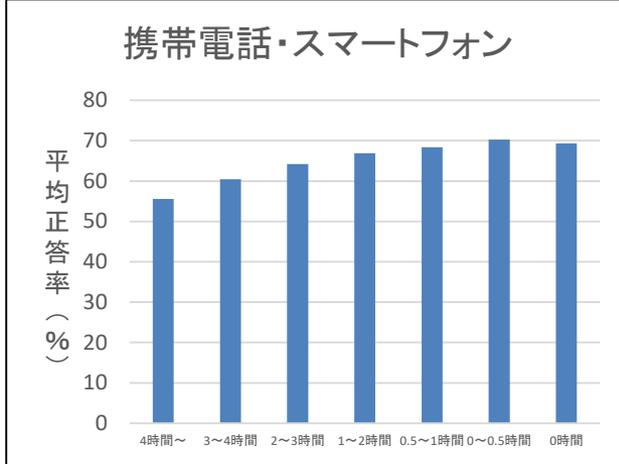
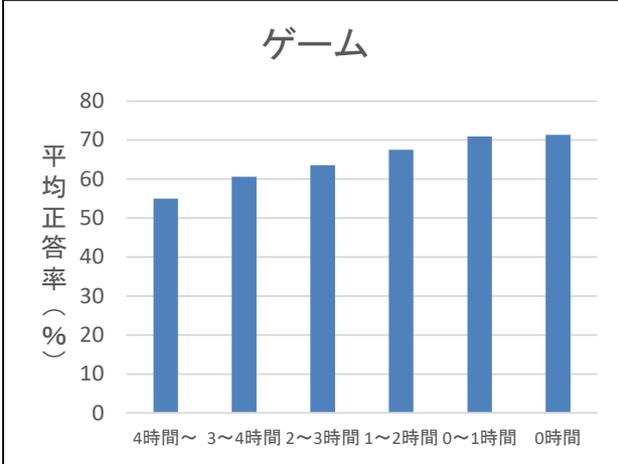
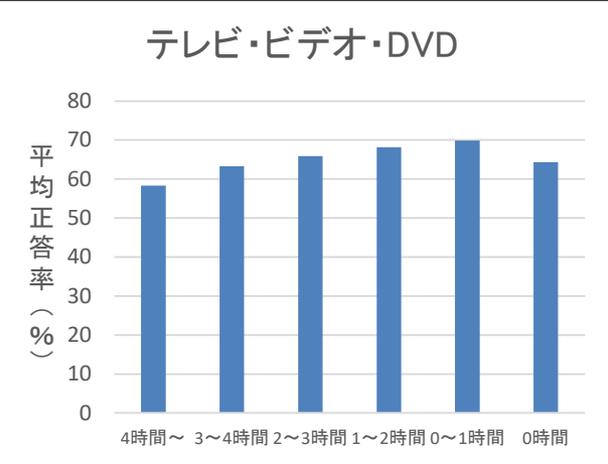
全国、平均正答率1位県との利用時間比較(平成29年度調査:小学生)



4-3 テレビ、ゲーム、携帯電話等の利用時間と学力の関係について(中学生)

・平日のゲーム、携帯電話・スマホの利用時間は、成績層により大きな差がみられる。

奈良県の利用時間別平均正答率(平成29年度調査:中学生)



全国、平均正答率1位県との利用時間比較(平成29年度調査:中学生)

